

インフルエンザの患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。（特に発熱から2日間は要注意！）
窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

〈異常行動による転落等の事故を予防するためのお願い〉

- インフルエンザの患者さんでは、抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。
- 異常行動は、
 - ①就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い（女性でも発現する）
 - ②発熱から2日間以内に発現することが多いことが知られています。

（異常行動の例）

- ・ 突然立ち上がって部屋から出ようとする
 - ・ 興奮して窓を開けてベランダに出て、飛び降りようとする
 - ・ 人に襲われる感覚を覚え、外に走り出す
 - ・ 突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする
 - ・ 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
 - ・ 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など
- 万が一の転落等の事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。
 - ・ 玄関や全ての部屋の窓を確実に施錠する（内鍵、チェーンロック、補助鍵がある場合は、その活用を含む）
 - ・ ベランダに面していない部屋で寝かせる
 - ・ 窓に格子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
 - ・ 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる